

セミナー通信

V o l . 333

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

一人一人の物語（２）

2021年度卒塾生のご報告も今月で最後である。残り6人は一言ずつでしか語れないが、彼らも在塾時、山あり谷ありだった。本来なら一人に一回分使いたいのだが、今回は短く紹介させていただき、いつか機会があればその後の高校生活を含め再び書かせていただきたいと思います。

まずはM君。中1の終わりから入塾した。家での勉強習慣がなかなか身につかないということで当塾に飛び込むことを決意。入ってきた時は学年順位も100番を超えていたが、必死に食いついて、30～50番台に。最後は「自分は厳しく見てもらえる高校の方が向いていると思うので。」と言って、高蔵寺高校に進学。鍛えられながらも楽しく元気に過ごしている。

次は小6から入塾したSちゃん。明るく元気いっぱい、3年間バレー部で頑張りながら、塾と中学校生活を両立させた。学年順位も一桁台をとることも多々あったが波もあった。ただ、いつも学校で一生懸命に取り組んでいたのだろう。内申は41を下回ったことは一度もない。菊里を第一志望にして見事合格。持ち前の明るさとバイタリティーで高校生活を謳歌している。

次は同じく小6から入塾したYちゃん。初めは計算も苦手で自分に自信がないように見受けられた彼女だったが、中学では真面目に塾の英語プリントやパートテストに取り組み、英語が得意科目に。3年間、英語はずっと5をキープした。心配性ではあったが、その分努力して結果につなげていった。内申も40まで上げて旭野高校に。合格の際の笑顔は自信に満ちていた。

次も小6から入塾したもう一人のYちゃん。数学をはじめしっかり考える子だった。進学する高校もよく考えてとことん自分で調べて決めた。勉強のレベルではなく校風が気に入って名古屋の中村高校に。穏やかで優しいが、周りに流されない、自分自身を持っている子だった。

次も小6から来てくれたR君。テニスに打ち込み、テニス部が強い旭野に進学を希望。塾で見ている限り勉強への取り組み方は大変真面目で、いい加減なやつつけ勉強など一切していないのに、なぜか内申が上がらない。学年順位は10～30番台。あきらめず頑張り続け、最後に到達した内申35で勝負に出て、見事逆転合格。同じく旭野に進学したA君と偶然同じクラスになり、球技大会や文化祭などの行事の際には二人でクラスの中心となって活躍したという。

最後は中1から来てくれたもう一人のYちゃん。なかなか自分の気持ちを表に出さない子だったが、最後まで瑞陵第一志望を譲らなかった。人気のある学校だけに、内申38では残念ながらもう一步のところまで涙を飲み春日井進学となったが、彼女の中で後悔はない。塾に来てひとしきり泣いた後、「大丈夫です。」と言った力強いまなざしは、しっかり未来を見すえていた。